

森田地区

「ボランティア活動で
通じるふれあい福祉」

森田地区は現在居住人口増加地区になって、小学校は福井県1位の生徒数になり、まもなく2校化されます。森田中学校が「九頭竜中学校」として移動新築され、中学校跡が「森田東小学校」として誕生します。高齢者については、従来から住んでいる高齢者に加えて、転入されてくる方が親と同居される家庭が増加しています。

地区社協では、民生委員・児童委員、福祉委員、保健衛生推進員、ボランティアグループさざなみ会員4団体の協力を得て活動しています。

敬老会では、民生委員・児童委員が76歳以上の方への訪問、出席のご意向を伺い、当日は民生委員・児童委員、福祉委員に加え、一昨年から中学生ボランティアの協力も得て開催しています。

他には、ふれあい健康ファミリーウォーキング大会を開催しています。コロナ禍で一時中断してしま



ふれあい健康ファミリー
ウォーキング大会の様子



森田地区社会福祉協議会
会長 三澤 高信

が、今年度は4月に九頭竜川河川緑地で高齢者との触れ合いを深めるため、ボランティアスタッフを募集し開催しました。森田中学1年生や医療関係者等のボランティア方々の協力により住民を巻き込んだ新しい取り組みで開催することが出来ました。今後、社協関係者だけでなく、ボランティア活動を推進し、高齢者とのふれあいの機会を増やしていきたいながら「高齢者にやさしいまちづくり」を目指していきます。

文殊地区

「充実した福祉活動で
住みたくなる
まちづくり」

文殊地区は福井市の南部に位置し、県内有数の登山者が多い文殊山を仰ぎ見る田園風景の広がる自然豊かな地区です。奈良時代の地図にもある東大寺荘園の「糞置荘」、泰澄が文殊山を開くとき井戸をくまれ文殊菩薩を祀ることをお告げされたという「文殊井筒」、平安中期以降につくられた国の重要文化財「十二面観音立像」などの歴史が残っています。

地区社協では、自治会及び公民館でのデイホーム（文殊いきいきサロン）を始め、福祉委員による安否確認を兼ねての配食サービス、民生委員・児童委員による月1回の見守り、年末は絵手紙を発送し、年明けに一人暮らしの高齢者宅へ訪問し声かけなど行っています。

地域の方が一堂に集まる事業として「敬老会&福祉まつり」を児童の和太鼓演奏、児童館のこどもたちのダンス、福井南高校の生徒による健康体操、抽選会、作品の展示・活動

パネル・専門委員による健康相談コーナーを実施しています。

また、「一日交流会」には多くの参加者があり、温泉施設に向いて、入浴や昼食を囲みながら日頃の身体や心を癒し楽しい日を過ごしています。

近年、文殊いきいきサロンの参加者が減少しつつあることから年齢制限なく誰でも気軽に参加できるように内容を考えています。今後は、こどもたちにも福祉活動に関心を持ってもらい、自治会連合会・各種団体などと力を合わせ、元気で明るい充実した地域福祉活動を展開していきたいと思っています。

文殊地区社会福祉協議会
会長 栗川 重一



絵手紙作成の様子